

令和元年九月七日

第十三回 『Salon de 修猷』 三時限目授業

「和歌でたどる福岡の歴史」

(株)寺子屋モデル代表世話役 山口 秀範

筑前国の志賀の海人の歌

伝山上憶良

沖つ鳥鴨とふ船は也良の埼廻みて漕ぎ来と聞え来ぬかも

価なき宝といふとも一杯の濁れる酒にあにまさめやも

大伴旅人

東風吹かばにほひおこせよ梅の花あるじなしとて春を忘るな

菅原道真

世のために身をば惜しまぬ心ともあらぶる神はてらしみるらむ

龜山天皇

妹が背に眠る童のうつつなき手にさへ廻る風車かな

大隈言道

我が胸のもゆる思ひにくらぶれば煙はうすし桜島山

平野國臣

初に寝る囚の枕うちつけてあれにもあれし波の音かな

野村望東尼

昨日まで南に見つる天つ日を北の御空に仰ぐ今日哉

福本日南

風車風の吹くまで昼寝かな

広田弘毅

福岡県西方沖地震より二年余玄海島を訪ねて
なるにより被災せし子ら我ら迎へ島鷹太鼓の撥掲げ待つ

上皇陛下